

21 世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方

■日 時: 令和4年 10月22日(土)14:30~16:00

■場 所: 兵庫県神戸市 JICA 関西2F ブリーフィング室 セッションシアター
※ハイブリッド開催(現地会場【定員 100 名】+オンライン(Zoom 配信)【定員なし】)

■主 催: 日本学術会議土木工学・建築委員会 IRDR 分科会

■共 催: 防災減災連携研究ハブ(JHoP)、 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

■開催趣旨: 南海トラフ地震、首都直下地震など 21 世紀前半に発生が確実視される超巨大災害が切迫している。また、全国的に甚大な水害の発生危険性が高まっており、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクを乗り越えるため、残された時間の中で何を準備して、発災後はどのように対応すべきかであろうか。学術、行政、民間、メディアの見地から、国難災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策について討議する。

■プログラム

14:30 趣旨説明: 田村 圭子 (日本学術会議連携会員、新潟大学危機管理室教授)

【基調講演: 国難災害とは】

14:40 「国難災害の課題の全体像」

河田 恵昭 (阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター センター長)

【国難災害を乗り越える 3 つのヒント】

14:55 「津波救命艇シェルターを活用した 1 次避難」

水野 茂 (株式会社ミズノマリノ 代表取締役)

15:05 「『伝えること』のできること～残された課題解決のために～」

大牟田 智佐子 (毎日放送 報道情報局 部次長)

15:15 「大阪北部地震の経験から～あらゆる主体に基づく防災のあり方～」

多田 明世 (大阪府茨木市 危機管理課元課長、よんなな防災会女子部 管理者)

【提言「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」】

15:25 総合討論

〈司会〉川崎 昭如 (日本学術会議連携会員、東京大学教授、未来ビジョン研究センター)

15:55 閉会挨拶 林 春男: (国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長、日本学術会議連携会員)

■お問合せ: 防災減災連携研究ハブ事務局(国立研究開発法人防災科学技術研究所)

info-jhop@bosai.go.jp